

コンパクトシティの都市拠点形成に向けた市民意向を反映した公共施設再編 —北海道夕張市における集約型コンパクトシティ研究 その26—

コンパクトシティ 公共施設再編 都市機能誘導区域
居住誘導区域 ワークショップ 都市拠点

正会員 ○杉本 匠 *
同 瀬戸口 剛 **
同 渡部 典大 ***
同 上木 翔太 ****

1. 研究の背景と目的

人口減少が著しい地方都市では、社会基盤の老朽化や財政悪化による都市機能の衰退に対して、人口規模にあった集約型コンパクトシティの形成が求められている。コンパクトシティ形成に向けて集約・複合による公共施設再編が必要とされている¹⁾²⁾が、その具体的な再編手法や計画プロセスは明らかではなく、公共施設再編の方針と施設を利用する住民の意向との関係も明らかにする必要がある。本論では、集約型コンパクトシティ形成を進める北海道夕張市を対象に、都市拠点形成に向けて、市民意向を反映させた公共施設の立地および施設機能の方向性を決定する有効な知見を得ることを目的とする。

2. 研究の方法

本論では、①夕張市が策定した立地適正化計画^{注1)}と公共施設等総合管理計画からコンパクトシティ形成における現状と公共施設再編の課題を抽出する。②市民へのアンケート調査^{注2)}により、各地区の生活ニーズと主要公共施設の利用実態を明らかにする。③既往研究³⁾より施設管理方針を整理し、現状の公共施設の立地と老朽化度の物的要素を元にした評価を明らかにする。④市民ワークショップ^{注3)}(以下「WS」)の意見から、考えられる機能と拠点像を導出する。⑤③④で示した各地区の拠点形成の計画方針、公共施設の物的要素、市民意向による拠点施設の方向性の関係性より、公共施設再編の方向性を明らかにする。

表1 拠点地区の地区別方針

	方針	誘導施設に求められる機能
若菜	市立診療所を中心に、商業・福祉・医療・健康・スポーツ・子育て・居住の機能を集積	商業・福祉・金融・地域交流・医療・文化・スポーツ
清水沢	都市機能の集積により都市拠点として強化各世代のニーズにあった住宅を整備	商業・福祉・金融・地域交流・医療・行政サービス・教育
紅葉山	交通利便性を生かし、交流機能の充実を図り商業・医療・子育て・居住の機能を集積	商業・福祉・金融・地域交流・医療・観光・交流

3. 現状の課題の整理

夕張市立地適正化計画^{注1)}では、各地区を都市機能や居住機能の誘導を図る拠点地区、新規の居住を抑制する地域再編地区、産業を支え緑の保全を行う生産地区の3つに分類し、そのうち3拠点地区(若菜・清水沢・紅葉山)には、地区別に今後の整備方針を定めている(表1)。しかし地

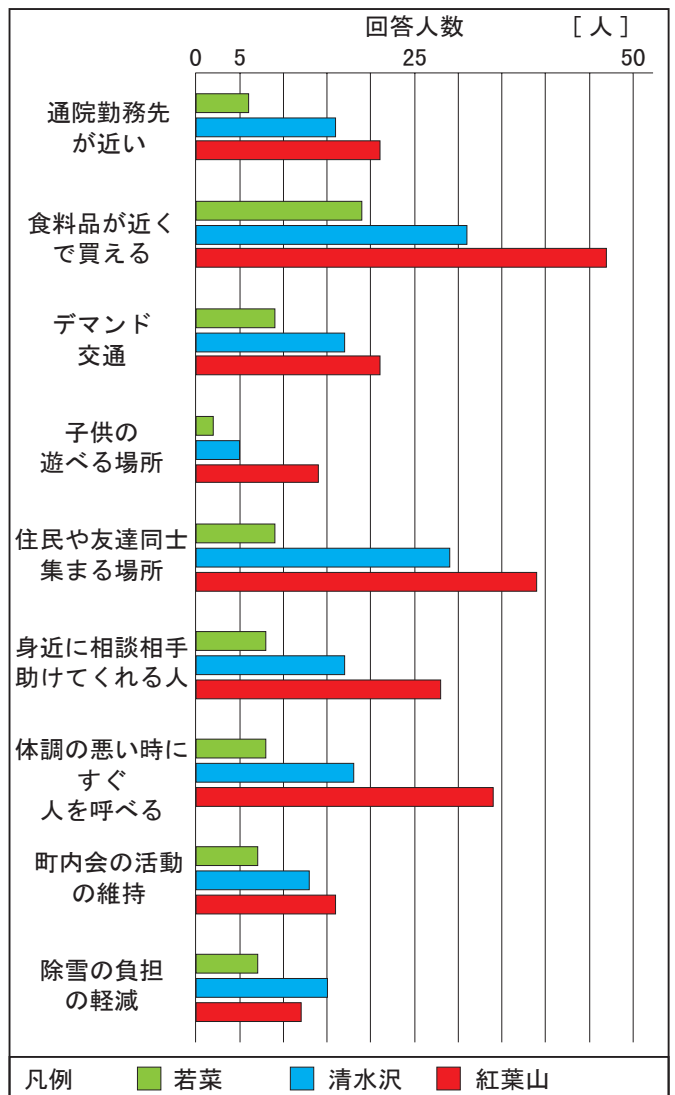
区別方針では、施設機能の具体的な集約の方向性や残存施設の維持管理の方向性については定められていない。

4. アンケートの分析

4-1. アンケート調査の分析方法

本研究では夕張市の世帯主を対象に行ったアンケート調査^{注2)}を用いて、公共施設再編に関する次の項目に着目し分析を行った。年代、居住地区、これからの生活で重要視するもの、施設の利用頻度、夕張で安心して暮らし続けるための考え(以下「自由記述欄」)。

4-2. 各地区の生活ニーズ



【居住地区（拠点地区）】と【これからの生活で重要視するもの】の2項目に関する分析結果を図1に示す。3拠点地区で食料品店の需要が多く、身近で食料品を買えるような場所が求められている。また、住民や友達同士集まる場所の需要は清水沢、紅葉山で割合が高く、気軽に集まることができる飲食店やコミュニティスペースが求められているということが明らかになった。

4-3. 主要公共施設の利用実態

【施設の利用頻度】と【年代】の2項目に関する分析結果を図2に示す。単一機能の文化スポーツセンター（以下「文スポ」）、多機能のりすた、メロードの比較から、単一機能の施設よりも機能が複合された施設の方がより多く利用される傾向にあることがわかった。また、図書館、交通、市役所支所などの公共、行政機能を複合したりすたは週1、月1、年1の利用が多く、食料品店などの店舗機能を道の駅に複合したメロードは毎日、週2～3、週1の利用が多く見られた。また、りすたはメロードに比べて若い世代の利用が多く見られた。以上の結果から、複合機能が施設利用の頻度に影響すると考えられる。

5. 現状の公共施設の評価と各地区の拠点形成の方向性

5-1. 施設管理方針の整理

夕張市では、公共施設再編に向けた現状の公共施設の評価を行うことを目的に、施設管理方針を導出している。既往研究³⁾における、施設管理方針導出の根拠データとなっている各施設の立地と老朽化度（以下「物的要素」）を用いて、市民意向との比較を行った。

5-2. 市民WSの分析と拠点像

本研究では、全4回のWS^{注3)}のうち第1回から第3回のWS結果、4章のアンケート分析結果から導き出された市民意向、物的要素を用いて、考えられる各拠点地区の拠点施設の再編の方向性を導出した（図3）。その結果から、老朽化度の低い施設を他機能に転用、及び他機能を複合することが求められていることが明らかになった。また、3拠点地区それぞれに異なった拠点施設の方向性が導き出され、多拠点型都市構造の必要性が明らかになった。3拠点地区毎に導き出された拠点施設の方向性は以下の通りである。

【若菜地区】文スポ・老人福祉会館・新市立診療所の機能を連携した多世代が利用できる健康・コミュニティ拠点。運動公園とその周辺を整備し地区内外の人に利用される運動拠点。その二拠点を豊かな空間で結ぶ。

【清水沢地区】りすたとその周辺の外部空間や店舗を利用した、若年層が利用しやすい空間を持つコミュニティ拠点。市役所庁舎を移転し、さらに都市拠点として整備していく可能性も示唆された。

【紅葉山地区】駅舎・道の駅・生活館・武道館を利用した市内外の人々に利用される夕張市の玄関口となる拠点。4施設に囲まれる現駐車場の外部空間を豊かに整備してい

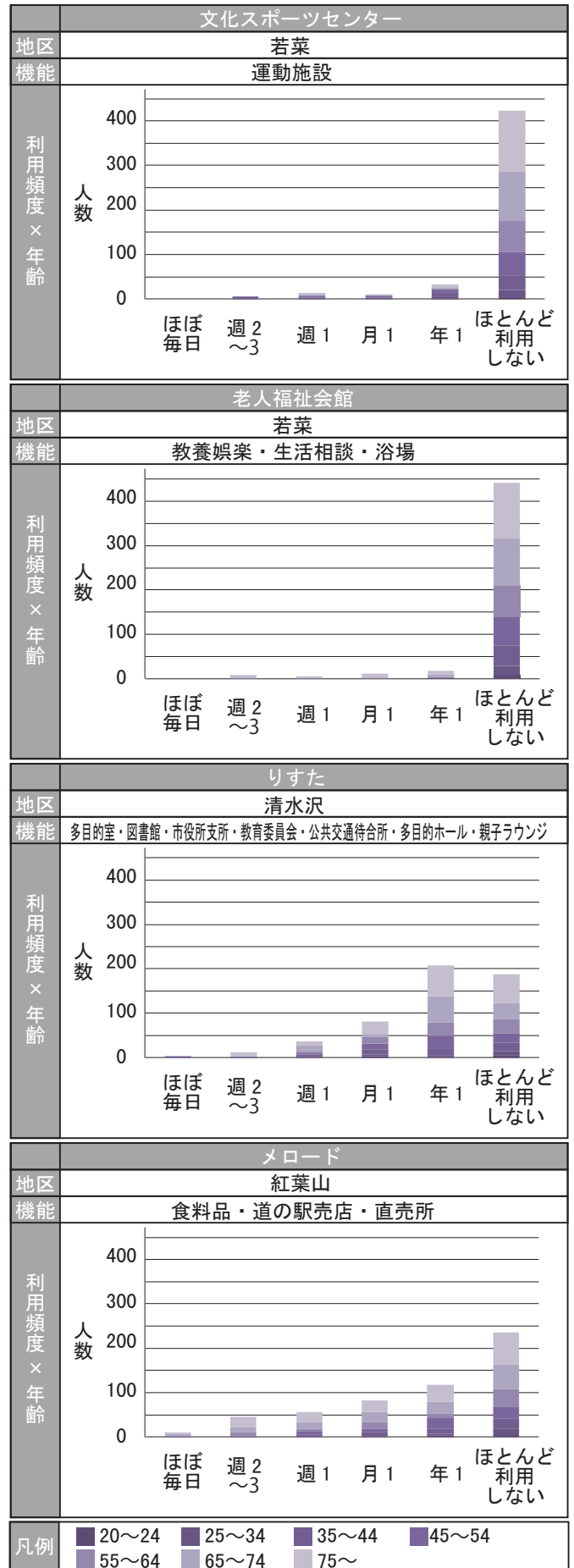


図2 主要施設の利用状況

く必要性も示唆された。

6. 考察

図 4 より、居住誘導区域、都市機能誘導区域と、公共施設再編の関係性として以下のことが考えられる。

【1】居住誘導区域外の施設は WS で言及されないものが多く、言及された施設は機能を代替できる施設が他にあれば廃止すべきという意見であった。公共施設再編の際に区域外にある施設は、区域内の施設に機能を代替できる場合には、廃止することが望ましいと考えられる。

【2】都市機能誘導区域外で居住誘導区域内にある施設は、清水沢生活館と清陵地域にある 2 施設に対する意見より、周辺住民の利用は維持しながら別の機能を複合することで、利用を促進していくことが望ましいと考えられる。また宮前町浴場に対する意見より、周辺住民にとって必要性が高い施設は、すぐに廃止するのではなく、周辺住民の意向を測りながら、徐々に廃止の方向に進めていく必要があると考えられる。

【3】都市機能誘導区域内の施設は、5-2 章で示した市民意向を反映した方向性を考慮し、各地区拠点施設の中心になっていくことが望ましいと考えられる。

【参考文献】

- 1) 佐藤愛美 (2018) コンパクトシティ形成に向けて市民活動を複合化する都市拠点複合施設の計画手法—北海道夕張市における都市再編研究その 16—, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp135-138
- 2) 上木翔太 (2020) 立地適正化計画に向けた維持管理費用に基づく公共施設再編手法—北海道夕張市における集約型コンパクトシティ研究その 21—, 日本建築学会学術講演梗概集, pp97-100
- 3) 既往論文 (上木翔太 (2022) 立地適正化計画における都市機能誘導に向けた公共施設再編のプランニングプロセス —北海道夕張市における集約型コンパクトシティ研究—)

【注釈】

- 1) 2021 年 4 月策定
- 2) 2021 年 6 月に夕張市内の各地区の世帯主 1643 人を対象に、各地区の居住の状況やニーズを把握することを目的に行い、687 票の有効票を得た。
- 3) 2021 年 11 月 4 日から 2021 年 12 月 16 日にかけて地区構想策定に向けた市民意向を把握することを目的として、市民 12 人と全 3 回の WS を行った。なお、2022 年 2 月に第 4 回を行う予定。各回のテーマは、第 1 回「暮らしを豊かにする理想」、第 2 回「理想に向けた取り組み」、第 3 回「具体的な拠点施設の内容」。



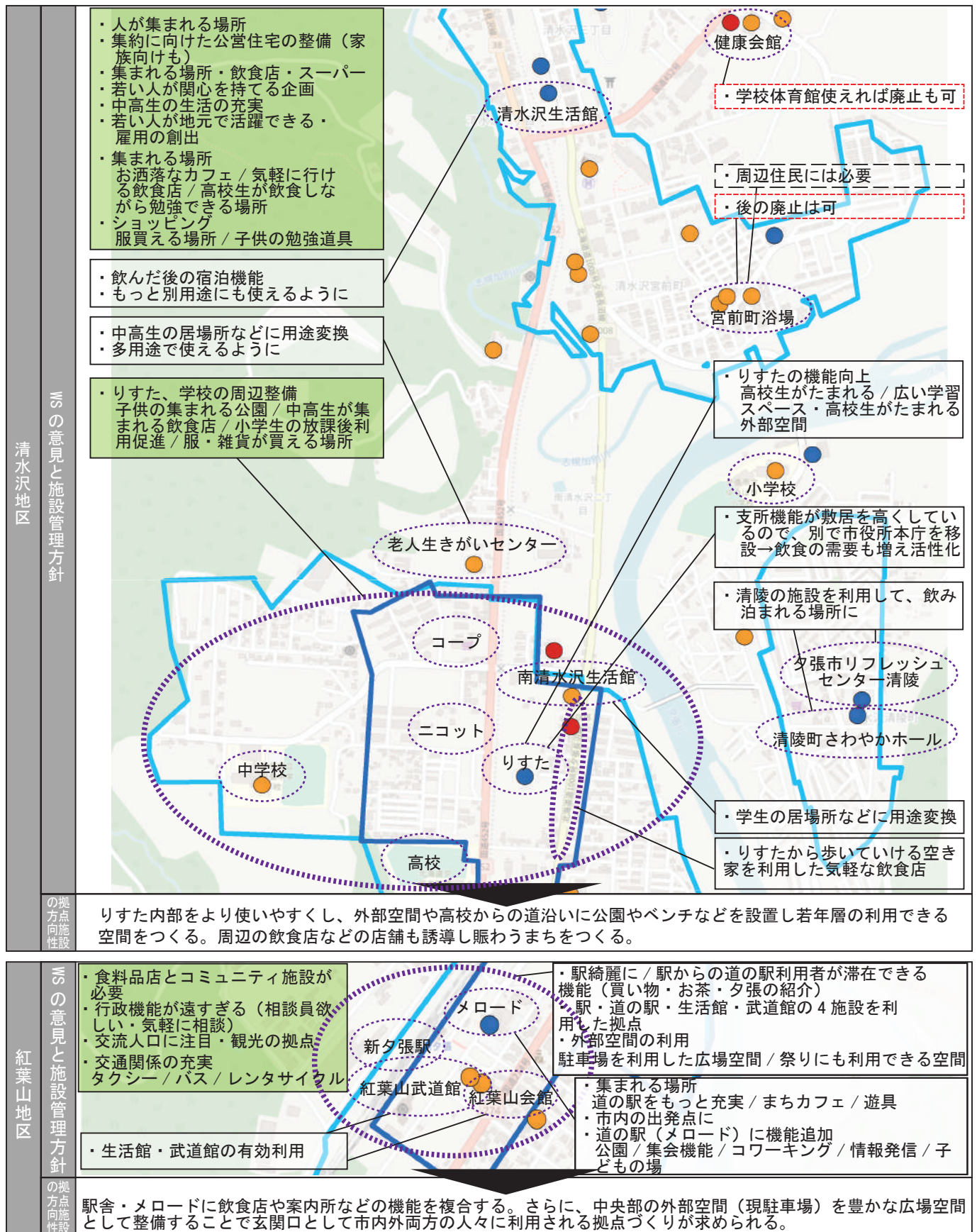


図3 各地区の将来像と拠点施設の再編の方向性

* 北海道大学大学院工学院 修士課程
 ** 北海道大学大学院工学研究院長 教授 博士（工学）
 *** 北海道大学大学院工学研究院 助教 博士（工学）
 ****株式会社三菱地所設計 工修

* Grad. Student, Graduate School of Engineering, Hokkaido Univ.
 ** Dean, Prof., Faculty of Engineering, Hokkaido Univ., Dr. Eng.
 *** Assistant Prof., Faculty of Engineering, Hokkaido Univ., Dr. Eng.
 **** Mitsubishi Jisho Sekkei, Inc., M. Eng.